

Esoko



ガーナ (アフリカ)

小規模農家向けデジタル・プラットフォームによる農業バリューチェーンの強化



小規模農家にとって最大の課題の一つは、社会の中でバラバラな状態であり取り残され、必要な情報にアクセスしにくいことにある。同社はデジタル・プラットフォームの活用により、農業バリューチェーン全体の情報ソリューションを提供し、小規模農家の包摂を促進している。



背景にある社会課題

- ガーナでは労働力の半分以上が農業分野に従事しており、多くは小規模農家である。
- 厳しい気候条件下で、農業の生産性は上がりにくい上、政府が支援に活用できる情報も少ない。

ビジネスモデルと製品の特徴

- 同社は農業バリューチェーン全体を接続するデジタル・プラットフォームの運営を通じて、中小農家の社会的包摂を支援している。
- 農家側が質問に回答することで、政府やNGOなどが支援に必要な実情を理解したり、プロジェクトのインパクトを評価することを支援している。

SDGビジネスへのアプローチ

- 小規模農家は地理的に分散しており、大規模な市場へのダイレクトなアクセスを欠くため、情報や技術の面で不利な立場に置かれている。これに対し、同社はデジタル・プラットフォームを通じて、農産物の市場価格や、資機材の情報、栽培技術及びトレーニング機会の提供などをワンストップに行うことで、小規模農家の農業バリューチェーンへの包摂を支援している。
- デジタル・プラットフォームを通じて得られた農家側の情報は、与信情報として金融アクセスを促進したり、マーケティングの材料としてサプライヤーから資機材の提案を行ったり、政府やNPOが農家向けのプロジェクトを立案・評価することに用いられている。

SDGsへのインパクト

- アフリカ20カ国で事業を展開しており、120万人以上の小規模農家がプラットフォームを利用している。
- 農業バリューチェーン全体の効率性に貢献し、登録農家の収入は平均して約10%向上した。

成功のポイント

- ① 小規模かつ分散しているため（情報や交渉力の面で）十分な力を持っていない農家を、デジタル・プラットフォームを通じてつなげることでエンパワーメントした。
- ② 農家側からも実情を発信し、それを元に農業セクターのサプライヤーや金融機関、政府機関、NPOなどがサービス提供を効率化できる、双方向のプラットフォームを作った。

